

【分野名：学際、複合、新領域】

大 学 名	東京大学
拠点のプログラム名称	生物多様性・生態系再生研究拠点
中核となる専攻等名	農学生命科学研究科生圏システム学専攻
拠点リーダー氏名	鷲谷 いづみ
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>本拠点は、森林、農地、海洋等の自然資源の利用・管理にかかわる農学生命科学および海洋科学の諸分野を縦系に、生物多様性・生態系の維持・保全という新たな社会的課題に寄与すべく発展しつつある環境情報学、保全生態学、保全遺伝学、環境修復学を横系に、環境の世紀にふさわしい新たな科学と技術の体系を編み出すことを目的とする。本拠点では、総合的・俯瞰的視野をもった研究者と実務者の育成を重視し、国際的な教育・研究・情報交流を推進する。日本を含むアジアの森林 草原、海域 陸水域 陸域などの移行帯を共通の現場とし、遺伝子・種・生態系の多様性、土壌・基質 植物系から広域的な生態系の構造・機能複合体としての景観まで、生物多様性・生態系再生の計画、実践、評価を視野に入れた研究・教育活動を展開する。また、研究結果を反映させた協働プログラムの立案や実施を通じて市民、NPO・NGO、企業、行政等と連携し、広範な市民による社会的評価を受けつつ研究・活動を展開する。</p> <p>具体的には、順応的管理手法による保全・再生事業や管理のあり方を研究する「順応的管理」グループ、生物多様性や生態系を指標する重要要素や関係を様々な空間スケールで監視・評価する手法を研究する「モニタリング」グループ、土地利用や環境要素の時間的・空間的变化の解析に重点をおいたアセスメント技術を開発・研究する「アセスメント」グループ、土壌・基質系と植物との共生系を多様な微生物の機能解明に焦点をあてて研究し、生態系の機能再生技術の開発に寄与する「再生技術」グループを組織して研究を進める。これらのグループは国内外の3箇所に設けるフィールド研究ステーションを活用しながら現場を共有し、あるいは相互に密接にテーマを関連させながら研究を進める。</p>	